

---

# オタクの彼氏

貂寡

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

オタクの彼氏

### 【Zコード】

N4883D

### 【作者名】

貂寧

### 【あらすじ】

ごく一般的な中学生の私には友達にはいえない事情がある。そう、私の彼氏はオタクなのだ・・・ただそれだけだけそれがいえない・・・そう、それがオタクの事情。

オタクには彼氏や彼女はなかなかできないとよく言われるけど  
オタクが悪いんじゃなくってイメージの問題なんだと私は思う。  
私の彼氏はオタクである。

特に今ガ ダ にものすゞく夢中。

私のことはお構いなしでプラモモデルを組み立てている。  
だけど私はそんな彼が好きだ。

何か一つのことに夢中になれる彼がすこいと思つた。  
それで好きになつた。

オタクには顔にコンプレックスを持つてゐる人が多いと聞いた。  
だけど彼はごく普通の中学生で顔が変と言つこともない。

そう、オタクの中には美形の人もいるんだ！！私は思う。

オタクはアニメが好きで一日中テレビにかじりついてゐると言つが  
そうではないと私は思う。

それは、一部のアニメオタクのイメージだと思う。

この世の中には、アニメオタク以外にも色々なオタクがいるんだ！！  
一般の人たちはオタクと言われるとキモいっと思うかもしけないが  
それは一部のイメージだと思う！！

私は、こんな事を彼に言つと彼は、

「別に・・・そんなこと気にしてるようなオタクなんてイネーよ。  
と自分をオタクと認めているよつた返事。  
彼氏に言つたら笑われるけど

今かの小説を読んでるみんなにはこの主張を知つて欲しい。

“オタクには優しい人達ばかりなんだーー（^\_^）”

ある日友達がこんな事を言つていた。

「 にあるネットカフェが営業中止だつて = =  
私の行きつけのネットカフェが・・・ (～0～)  
なんだか最悪だ。」

今時ネットカフェ難民とか言つてゐるけどそんなの知るか！――！  
このこともオタクの一部のイメージにしか過ぎないんだ。  
オタクは、漫画喫茶やネットカフェに泊まり込んで働かない・・・  
なんて変な話しだ。ニートとオタクが同じなんておかしい！！  
オタクの中には一生懸命働いてその上で趣味を楽しんでいるんだ！――  
私は、心の中で叫ぶ" = = = = =  
『オタクに自由を～～～』

こんな事を彼の前で言つと笑われるから言わない。

私は、中学生だけ色々な事情を知つてゐる。  
彼氏はクラス一と言つていいほどのオタクだけど・・・  
まだ友達に彼と付き合つてゐると言つていい。  
と言つよりいえない。

友達が彼のことを認めてくれなかつたらどうしようかと・・・  
変なイメージにとらわれてゐる私がいる。  
彼と私は、どんなイメージで生活してゐるんだろう。  
勇氣を出して言わないと・・・

“オタクも人間なんだ――！人権だつてあるんだ～～”私は心の  
中で叫ぶ。

で、そんなこともありまして彼は今またプラモデルを組み立ててる。  
いつまでやるんだよ・・・

「ねえ、今日!デートじゃなかつたの?」

私は、やつと聞く。

「はあ・・・」ため息をつかれる。

「なんなのよ。そのため息。」

「これが終わったら行くから。」彼は、今色を付けている。

「え～時間かかるじゃん・・・すぐに夕方になっちゃうよ（ \*・・）

うえ～ん

鳴き声を上げる。

「つむさいな・・・あと5分だけ待つて。」

「う・・・（・・・）」

私は、涙をぬぐう。

「仕方ないな。さあ行くぞ・・・」

彼は立ち上がって私の髪を少し触る。

「うん！～（^ ^）」

私も立ち上がってついて行く。

「で、どこに行けば良いんだ？」

彼はしけた感じで言つ。

「遊園地・・・水族館・・・う～ん」

「考えてねえのかよ！～」

おでこを少したかれる。

「デコ触るな」（～～（^ ^）」

恥ずかしくなる。

「仕方ね～な、じゃあいつもの所だ。」

いつもの所は、私たちの行きつけのネットカフェ・・・

「ダメ～～あそこ、この前営業中止になつたんだよ～知らなかつた

？」

彼はバツの悪い顔で言つた。

「じゃあ、どこに行くんだよ・・・」

「う～ん・・・じゃあ映画見に行こ～～」

「そうか・・・あれだなアニメだな。」

「何でそうなるかな～私は、あれが良いな感動するやつ。」

「じゃあそれを見に行くか。」

そして私たちは映画館に行く。

見たのは、結局アニメ・・・

なんだよ～この年になつてアニメかよ・・・  
彼につっこみを入れる。

「オタクか。」

「・・・・・」

反応がない。もしや・・・と思つてみてみると爆睡していた。  
寝るなよ～こんなつまらない物見たくないつてか。

アニメ選んだのあんただろ～。

私はスクリーンの中で戦つている小動物を見る。

面白くないな・・・・私もだんだんウトウトしてきた。

映画つてだめなんだよね眠くなるから。

ああつ眠くなつて目が閉じて・・・お休みなさい～ZZZ

何分たつたか解らないけど私の唇に何かが触つた。  
目を開けると彼の顔が真ん前にあつた。

「え～なんでも～」と言つ言葉が「\* + .。 # \$ , & 訳の分からな  
い言葉になる。

唇が動かなかつた・・・

周りはまだ暗いので映画が続いてこむ」と口付く。

映画が終わつて彼に聞く。

「何でいきなりキスするのよ・・・・」

「うつせいな～どうだつて良いだろ。」

「いやつ。だつてそんな～意識してなかつたのにファーストだつた  
のに・・・」私は、涙目になる。

「ごめんごめん( ^ / ¥ ^ )ついつい、寝顔が可愛くつくな～たまらな  
かつたんだよ～」

「何でよ、ばかばか( ^ ^ )」

「『ごめん』って言つてるじゃないか。」

そして彼が家に送つてくれる。

まだ親は帰つてきていなければ上がらせない。

結構私は、恥ずかしがり屋だ。

「ホント今日は、『ごめんな』。」彼が謝つてくる。

「別に良いよ。」私は、まぶしい夕日を浴びながら言つ。

「本当にごめん。」

彼はそう言つと私に抱きついた。

なんでも恥ずかしいよ・・・。

そしてそつと私の唇に口付ける。

ファーストキスは奪われたけど彼のキスは甘かつた。

オタクだつていい人はいるんだ。

けど、私は彼に秘密を作つていて。

彼には言つていなけれど・・・私はオタクだ。

私は、悪いオタクなのだ。

夕日に背を向けて彼は帰つていく。

ありがとう。心の中でそう思う・・・。

本当にごめんね。

部屋の中に私は入る。

ものすごいことになつていて。アニメグッズは集め放題だし・・・

整理もしてないし。だけど、彼みたいにプラモは作らない。

そう、私こそ真のアニメオタクなのであつた。

だけど、皆さん。誤解しないでくださいね。

オタクだつて人には嫌われたくないんです。

オタクだって人並みに生活したいんです。  
オタクだって彼氏や彼女が欲しいんです。  
オタクだって職についているんです。

そう、私と彼はオタクだけど・・・  
決して人並みの生活から離れようとしない隠れオタクだって言つこと。

そう、皆さんの隣にも隠れオタクはいるかもしませんよ・・・。

夕日に染まる部屋の中で今私は小説を書いている。

こんな自分はクズかもしれないけれどそれでも生きているんだ。

今書いている小説を私はオタクの主張だと受け取って欲しいと思う。  
「ミニや、クズではないオタクの事情・・・

(後書き)

これは、私がオタクになりつつあると感ずいてオタクってどんな人  
たちなんだろうと思い書いた物です。  
面白くなかったかもしれませんがあまり良かつたらオタクさん達の力  
になつてあげてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4883d/>

---

オタクの彼氏

2010年10月11日02時38分発行